

2019年1月21日

『歴史は実験できるのか——自然事件が解き明かす人類史』

正誤表

■初刷のみの修正（2刷、3刷では修正済み）

p. 20 後ろから5行目

（誤） 一〇年間は絶好状態

（正） 一〇年間は絶交状態

p. 43（赤字は「誤」の中は削除された箇所、「正」では追加された箇所を示す）

（誤）

ちなみに私は、べつの場所でこれを「競争的退行」と呼んでいる。マタエイナアの集団同士の競争は、タウアやトアへの信望を高めるために欠かせない要素で、**そのため**首長の後継ぎの誕生、地位の高い人物の婚約や結婚、収穫、戦争での勝利など、様々な饗宴（コイナ）が催された。

（正）

私は、べつの場所でこれを「競争的退行」と呼んでいる。マタエイナアの集団同士の競争は、タウアやトアへの信望を高めるために欠かせない要素で、首長の後継ぎの誕生、地位の高い人物の婚約や結婚、収穫、戦争での勝利など、様々な饗宴（コイナ）が**競い合っ**て催された。

p. 93 後ろから4～5行目

（誤） 一二五万人のスペイン

（正） 一二五万人のスペイン人

p. 103 後ろから4行目

（誤） 支われた。

（正） 支払われた。

p. 104 後ろから5行目

（誤） 銀行制度の独占する誘因

（正） 銀行制度を独占する誘因

p. 160 後ろから1～3行目

（誤）

出身民族に関するデータは、奴隷を沿岸部出身者と内陸部出身者に分類するためだけに使われている。したがって、内陸部か沿岸部のどちらかの民族集団のサンプルが多すぎたり少なすぎたりしないかぎり、**データが限られていても**推定値が偏る心配はない

(正)

しかしここでは、出身民族に関するデータは、奴隷を沿岸部出身者と内陸部出身者に分類するためだけに使われている。したがって、内陸部か沿岸部のどちらかの民族集団のサンプルが多すぎたり少なすぎたりしないかぎり、推定値が偏る心配はない

p. 220 (と編著者紹介)

(誤) (James A. Ribinson)

(正) (James A. Robinson)

編著者紹介の頁 (の訳者紹介の中)

(誤) 『ブレトンウッズの戦い』

(正) 『ブレトンウッズの闘い』

■初刷、2刷に共通の修正 (3刷では修正済み)

p. 89 後ろから8行目

註(62)のあとに一文抜け

一八二八年には世界で三一六八種類の新聞が発行されていたが、そのおよそ半分は英語だった。⁽⁶³⁾

p. 229 4行目、表7.2

(誤) プロシア

(正) プロイセン

p. 230 図7.3

(誤) プロシア

(正) プロイセン

(誤) ザクソニー

(正) ザクセン

p. 238 後ろから3行目

(誤) プロシア

(正) プロイセン

p. 243 図 7.4

(誤) ザクソニー

(正) ザクセン

p. 244 8行目

(誤) プロシア

(正) プロイセン

p. 245 図 7.5

(誤) ザクソニー

(正) ザクセン

p. 248 4行目

(誤) プロシア

(正) プロイセン

(註の) p. 37 9~10行目

(誤)

ここではフランスによる侵略という処理変数と、経済開発や都市化の**プロキシ**のあいだの誘導型の関係を調べている。

(正) ここではフランスによる侵略という処置変数と、経済開発や都市化という**代理変数**のあいだの誘導型の関係を調べている。

以上